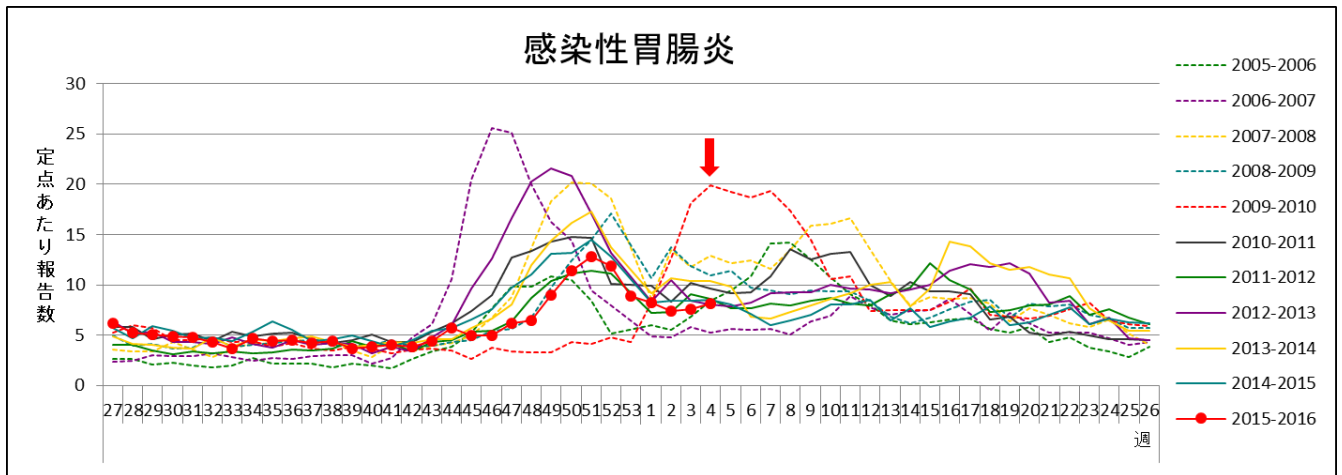


感染性胃腸炎週報 2016年 第4週 (1月25日 ~ 1月31日)

- 感染性胃腸炎は、県全体で437名（定点あたり7.54 → 8.09人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。
- 感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が1施設でありました。（1月25日）



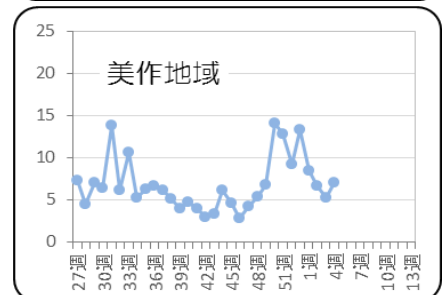
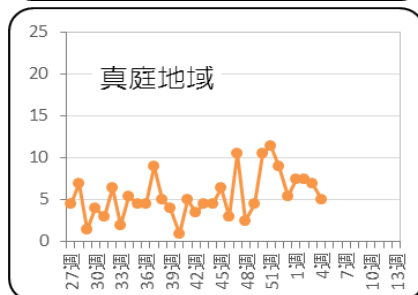
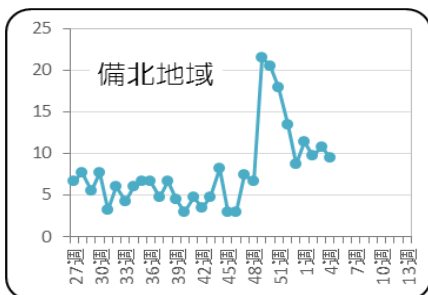
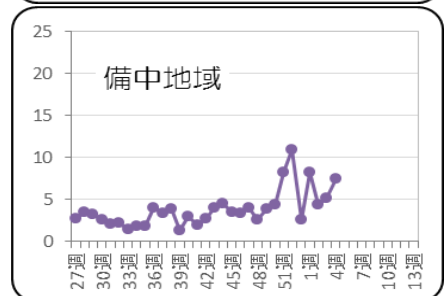
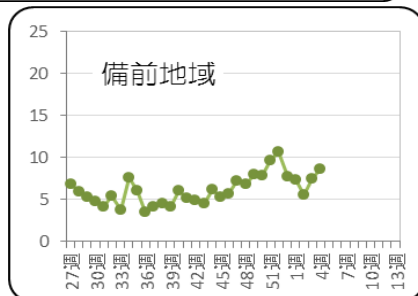
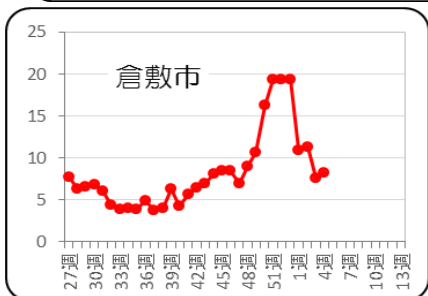
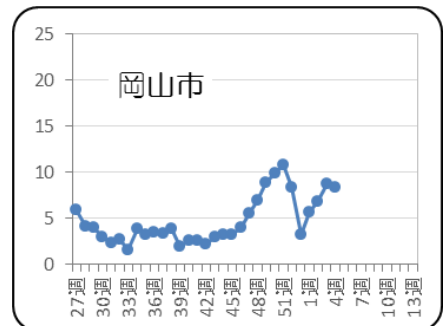
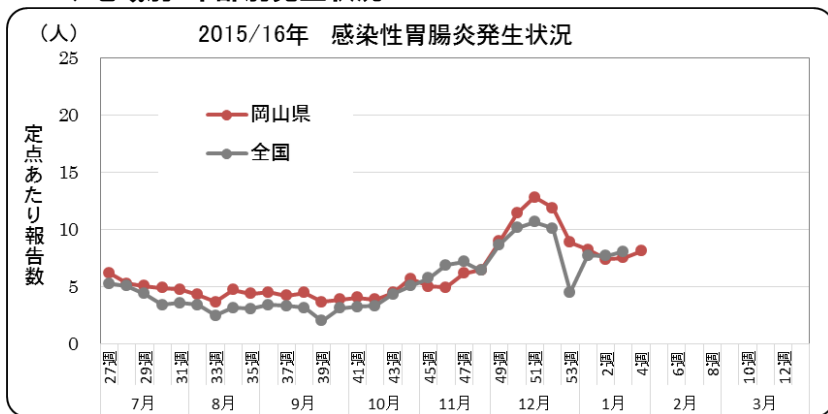
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で437名（定点あたり7.54 → 8.09人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。県全体の報告数は12月に比べて減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。地域別では、備北地域（9.50人）、備前地域（8.60人）、岡山市（8.36人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

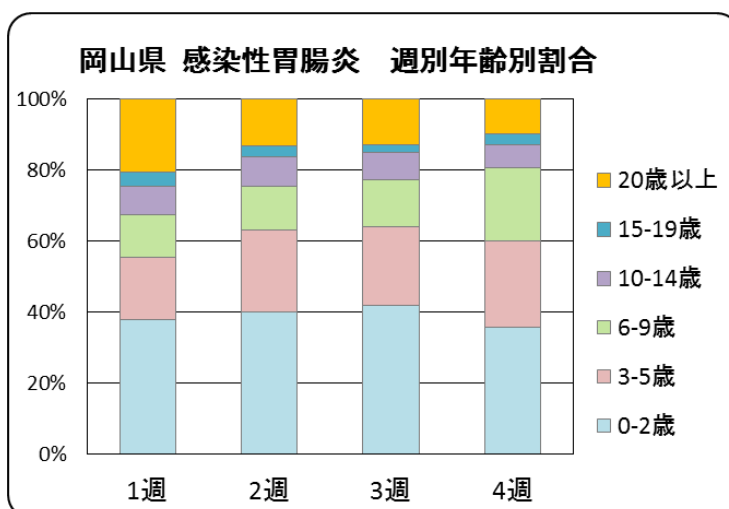
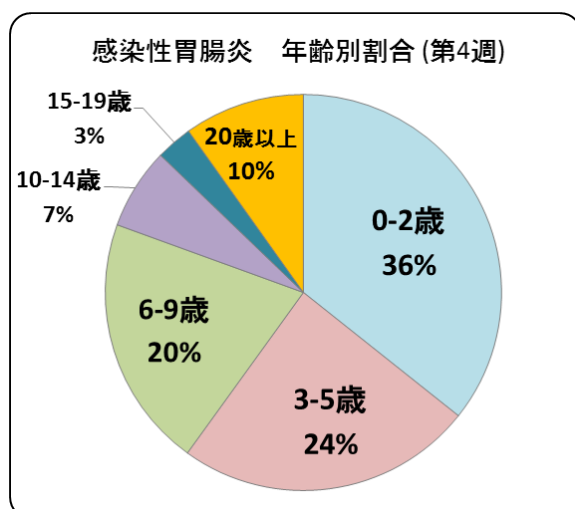
瀬戸内市の幼稚園では、感染性胃腸炎による臨時休業がありました。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

◆地域別・年齢別発生状況



年齢別割合では、0-2歳が36%と最も高く、次いで3-5歳 24%、6-9歳 20%の順となっています。年明け以降、10歳未満の年齢層が占める割合が徐々に増加しており、第4週は特に6-9歳の割合が増加しました。



◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

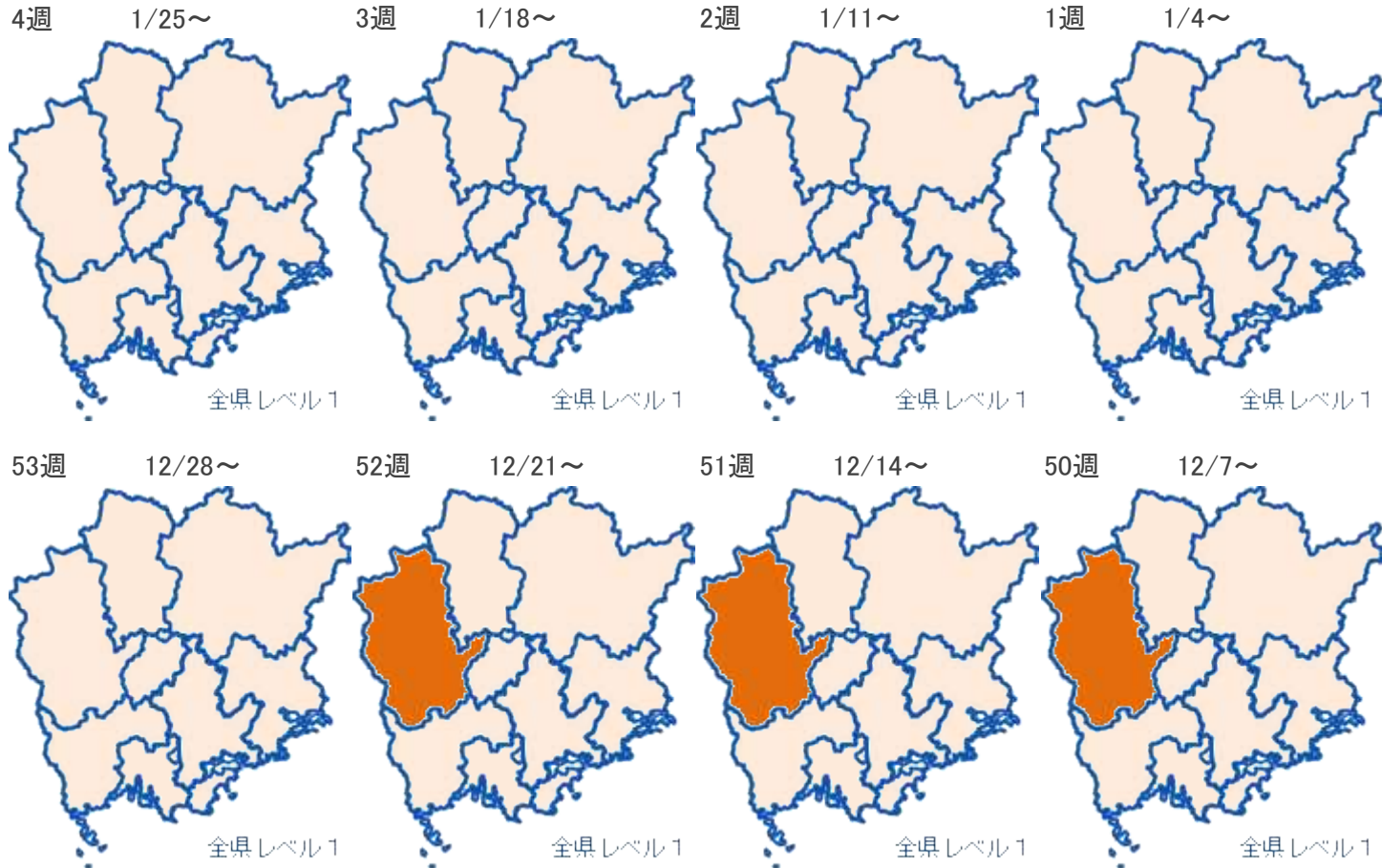
二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。



岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2016年 4週

2016年2月3日

10:51:01



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。